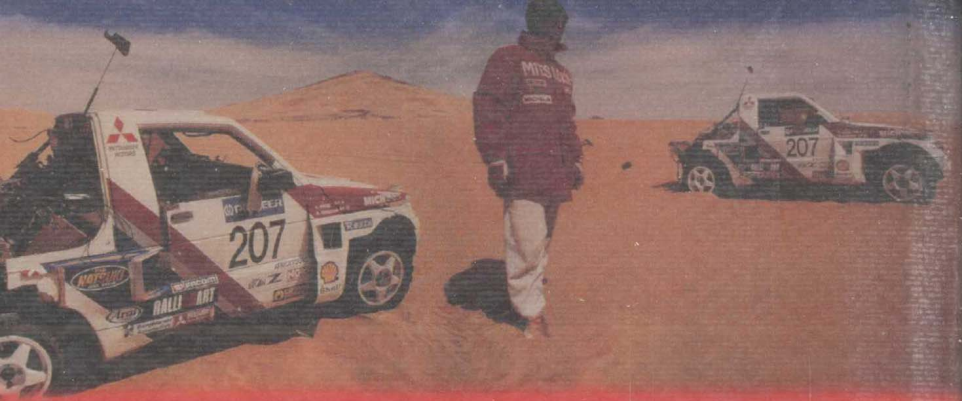




パリタカ漂流

1991死闘 砂漠への挑戦

島 田 莊 司

パリダカ漂流

第一版第一刷発行

一九九二年四月一七日

著者

島田莊司

発行者

中西吉水

発行所

株式会社芸文社

〒一〇一東京都千代田区神田駿河台三三十五
電話●〇三三三九五〇八二四編集●〇三三三九二〇二二販売●

編集担当／立木建司

印刷所

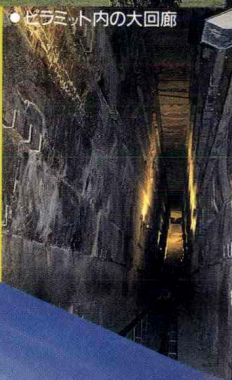
ベーターフォト印刷株式会社

製本所

大口製本印刷株式会社

●盗丁・乱丁本はおとりかえいたしません。

。
パリダカ漂流





●TSOによる書類審査



●車検合格車にナンバーステッカーを貼る



●小川立松車の断後点検



● スタート台上の篠塚と握手する著者



● スタート台上に立つA・バタネン



● 楽しそうにバギーも参加



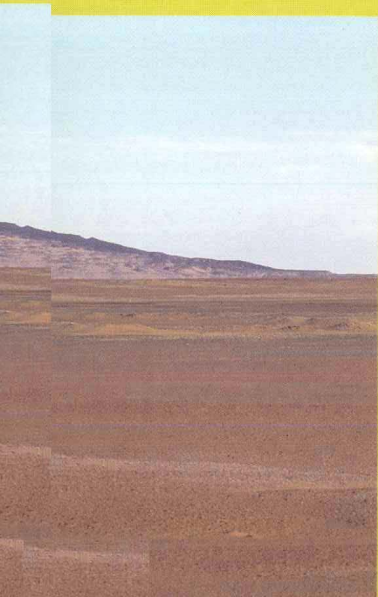
● ラダ・サマラ210の横に立つH・オリオール



●プロローグ 篠塚の駆ける三菱パジェロ207

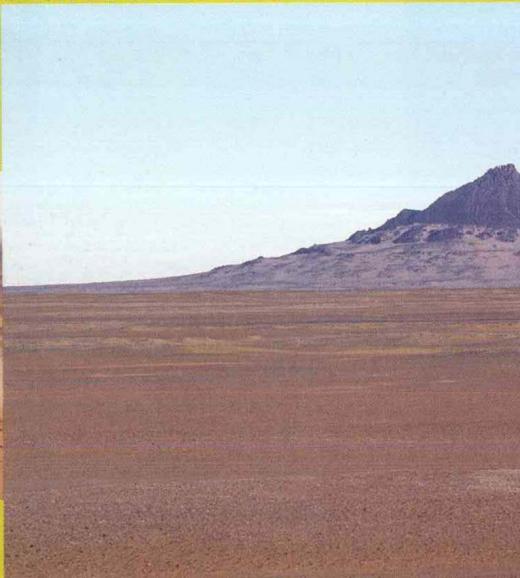


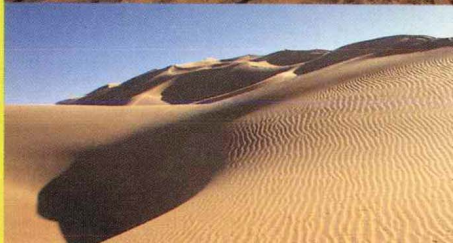
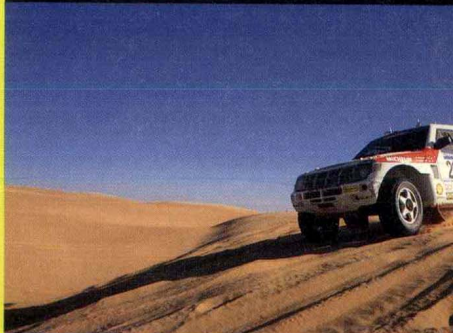
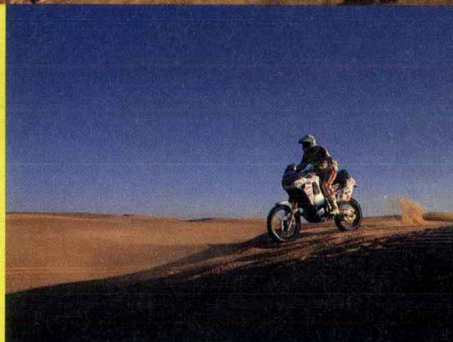
●プロローグでラダ209のP・タンベイは一回転。
リアのエンジン・フードと、左のドアを壊した





● テネレ入口にそびえるエミ・フェザン





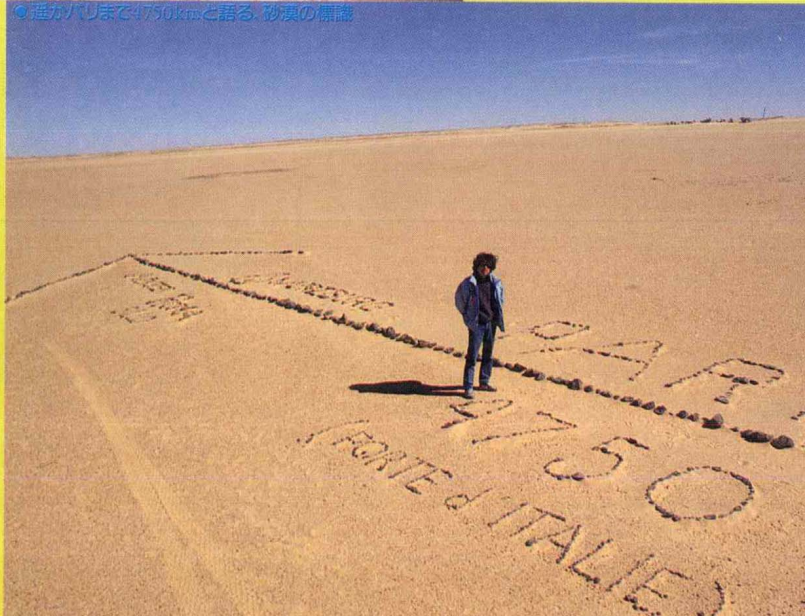


●ワークス・バジェロチーム、必死の修理



●シトロエン・ワークスは、
より完璧な修理体制を誇る

●港がパリまで4750kmと語る。砂漠の標識





●モト(バイク)部門優勝, S・ベータハンセル



●ダカール。優勝したバタネン・ベルグルンド組



●フロントガラス左上に遺る生々しい弾痕



●射殺されたS・カバーヌ選手(貼り紙の写真左端)

此为试读 需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com
●ドアの下から流れ出た死者の血(本文参照)

パ
リ
ダ
カ
漂
流

【目次】

【第一巻】

エジプト日記

十一月二十日



十一月二十日

【第2部】

。パリダカ日記

序論一九九二年の。パリダカ

106

。パリダカールラリーの構造

112

その精神

パリダカールラリーのカテゴリ

競技の進行

パリダカールラリーのコース

新ルール、マラソンとパルクフェルメ

エントリール状況

十二月二十七日

125

一月十七日

305

後記

321

装幀……………戸田ツトム＋岡孝治

写真……………桑原 靖（グラビアP2～P7、第2部扉、P127～202）

本宮雅徳（グラビアP8下3点、P246、P255～285）

日高一仁（カバー、表紙、別丁扉、P249）

エジプト日記

第1部



十二月二十日（木）

パリからのエアフランス118便がカイロ空港に向かって下降を始めた時、僕は足もとに置いたバッグに屈み込んで、入国カードやパスポートを用意した。

窓の外はすでに陽が暮れている。カイロのローカルタイムで午後七時前だ。起きあがり、背もたれに寄りかかってふと窓外を見た時、声をあげたい気分にとらえられた。ヘリオポリスの街明りが、すぐ足もとに広がっていた。手を伸ばせば、さらさらと撫でられるほどの間近に感じた。

この街の明りは、これまでに飛来したどの都市の明りとも違った。夜の底に、黄色の豆ランプを均等にばら撒いたようだった。ネオンサインはただのひとつも見えず、ぎらぎらとあくどく光るなものもなかった。

黄色い豆ランプのネットが覆った巨大な丸テーブルが、ゆるやかに足もとで旋回していた。豆ランプの多くは、じつとこちらを見つめるように静かに光っていたが、そのうちのいくつかは、ゆるやかにまたたいていた。しかしよく見るとそれは、ランプ自体が明滅しているのではなく、こちらの移動につれて、一部の光が、樹や建物の陰に入るためなのだった。すぐにまた物陰から出てくる。そのため、点滅しているように見えるのだ。

身近に見えたのは、空気が異様に澄んでいるためだった。異様に澄みきり、乾いている。それが、まだ大都市に成熟していないカイロ近郊のこの都市を、静かな、音楽のように観せていた。